

事業活動報告 NO.5

平成30年度
地域別事業報告交流会の実施結果

本協会では公益目的事業に対する理解の促進及び普及を図るため、関東を除く北海道地域、東北地域、中部地域、中国・四国・関西地域、九州地域において、加盟大学の協力を得て会場を設営し、加盟・非加盟校の大学を対象に無料で事業報告交流会を実施して事業改善に役立てています。

以下に、平成30年度の実施状況の概要を報告します。

開催日	開催地域・開催場所	参加校	内、非加盟	出席人数
平成30年12月 3日	関西・中四国（関西大学）	8大学 0短期大学	0校	22名
12月 6日	九州地域（福岡大学）	7大学 0短期大学	2校	16名
12月10日	東北地域（東北学院大学）	3大学 0短期大学	0校	55名
12月11日	北海道地域（北海学園大学）	6大学 0短期大学	4校	73名
12月18日	東海地域（静岡産業大学）	3大学 1コンソーシアム	0校	31名
	計	27大学 0短期大学	6校	197名

※ 非加盟校は6大学で10名（5%）

※ 197名中、教員53名（27%）、職員144名（73%） 教員・昨年度より7ポイント増

※ アンケート回答者59名（30%） 内、教員22名（37%）、職員37名（63%）

地域別事業活動報告交流会のプログラム

開会
向殿会長の挨拶 会場校の挨拶
<情報提供> 「AI時代から大学教育のイノベーションを考える」(井端事務局長)
<テーマ別報告> 向殿会長、井端事務局長で説明 ① 教育・学修方法の改善に向けた活動 (分野連携アクティブ・ラーニング対話集会、知識の創造・実践力を目指したICT活用教育の研究、問題発見・解決型情報リテラシー教育の研究、構想力・問題解決力を目指す分野横断型PBLの研究、データサイエンス教育支援の研究) ② 大学連携・産学連携による教育支援等の振興・推進活動 (教育コンテンツの相互利用、改正著作権法に関する課題、産学連携人材ニーズ交流会、教員の企業現場研修、学生の社会スタディ) ③ 情報環境の整備充実に向けた活動 (情報関係補助金の要望と文部科学省概算要求、情報環境調査の実施、情報化投資額の状況) ④ 教職員の職能開発の活動 (教員のICT活用研究の発表・表彰、ICT活用の拡大強化、大学職員のICT活用能力研修、サイバー攻撃に対する情報セキュリティの点検と対策)
参加者との意見交流
閉会

アンケートの結果

1. 事業活動に対する感想 (主な感想を抜粋)

【教員】

- ① エクセル、ワードなどのソフトの使い方を教えるような教育はリセットして、新しい教育を考えるというのは新規なもので、感銘を受けた。
- ② 大学の危惧される教育現状とICT、クラウドを用いた新しい授業の形を示していただきました。学内で今後の取り組みを加速させる必要があると考えます。破壊的創造を大学内で起こすことの難しさを感じつつ、新たな取り組みを準備していく必要を感じました。
- ③ 最近のAI導入に向う社会の中で文部科学省などがどのような施策を考えているか良く分かり、とても参考になった。
- ④ 大変重要な情報でした。意識が高まりました。教職員のみならず、学生にたいしても情報を発信することも重要と考えます。可能な限り学生へも情報を提供してはいかがでしょうか。
- ⑤ 改正著作権法に関する課題の説明、大変参考になりました。学生の個人情報等を扱う際や成績などをデータとして蓄積し、それをもとに指導を行う場合の注意点が良く分かりました。
- ⑥ 非常に興味深い、役に立つ内容の活動が多いかと思えます。しかし、残念ながら高い問題意識の高い教職員がまだまだ少ない点が心配です。

【職員】

- ① AI、IoT、ビッグデータ、ロボットなどの技術革新により、社会や産業のイノベーションが進んでいる現状を詳しく知ることができ、大学教育のあり様について考えさせられました。おもしろいヒントを沢山紹介いただきありがとうございました。
- ② 今後のAI、IoT、ビッグデータといった先端技術に関する最新動向を興味深く聞かせていただいた。このような時代の中で一地方大学として、またそこで働く一職員として何ができるのか考えたいと思います。
- ③ 遠隔参加等の機会が増えると参加しやすくなるので、可能な場合には案内いただきたい。
- ④ 多様で幅広い活動をされていることがよく分かりました。時代の求めるものに対して事業活動されていることもありがたいことだと思いました。
- ⑤ 教育のオープンイノベーションの促進が不可欠であるという説明と、その促進のための協会の取り組みが大変参考になりました。

2. 交流会の運営等に関する要望・感想 (主な感想を抜粋)

【教員】

- ① ネット社会の進化とは言え、地方の大学にとってはこういった機会は貴重ですので、毎年継続いただきたい。
- ② 参加人数が少ないと今後縮小されないか心配ですが、継続していただきたいと思えます。
- ③ 地方の大学にとって中央の動きを知ることができる重要な機会なので、さらに拡充していくことが期待されます。

【職員】

- ① 「AI時代から大学教育のイノベーションを考える」の説明は、私情協の考え方が理解でき有益であった。協会の方向性と展開例がとてもよく分かった。
- ② 非常に密度の濃い内容でしたので、他大学からの参加が少ないのはもったいないと思えます。周辺地域からより多くの参加者が集まるような仕掛けが必要と感じました。